

オホーツク海・日本海 4 月 魚探情報

—試験調査船「北洋丸」による海洋観測および魚群分布調査の結果—



2020 年 5 月 11 日

北海道立総合研究機構 稚内水産試験場

(担当：調査研究部 堀本 0162-32-7166)

- ◎オホーツク海沿岸域の底層水温は前年より高めで、5℃以上の水温帯が優占
- ◎スケトウダラと見られる魚群反応量は前年同様、枝幸～雄武沖に分布
- ◎宗谷岬東方沖ではニシンとみられる魚群反応を複数観察
- ◎日本海の底層水温は前年より高く、沿岸域で5℃以上の水温帯が優占
- ◎留萌沖にスケトウダラとみられる魚群反応が分布

1 調査概要

2020 年 4 月 13～19 日に稚内～積丹沖の日本海、27～29 日に稚内沖～網走沖のオホーツク海において、試験調査船北洋丸により、海洋観測および計量魚探を用いた魚群分布調査を実施しました。

2 水温観測の結果（オホーツク海）

調査海域における底層水温（海底上 5～10m、水深 500m 以深の海域は深度 500 m の水温）の分布を図 1 に示します。今年 4 月の底層水温は、2019 年より高く、宗谷管内の沿岸域では宗谷暖流の流入により 5℃ 以上の海域が広がっていました。

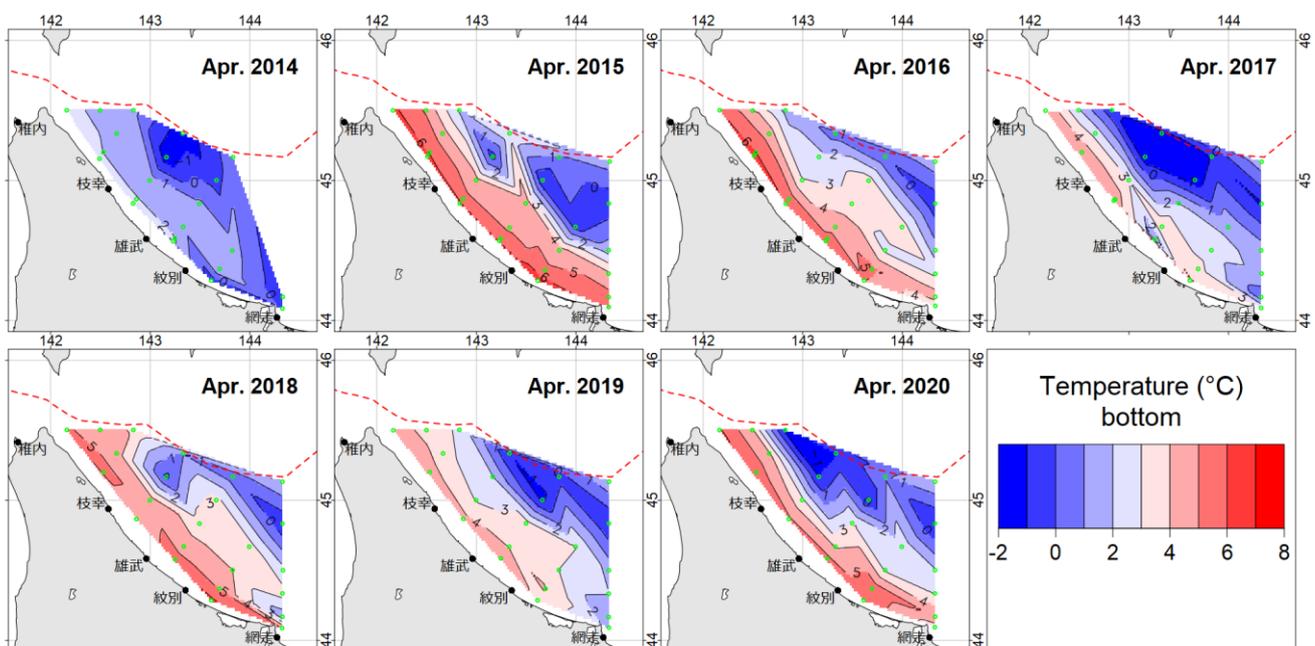


図 1. 北海道沿岸オホーツク海における底層水温（℃）の分布. 2014～2020 年 4 月.

3 魚群分布調査の結果（オホーツク海）

計量魚探で得られた1海里あたり魚群反応量の分布を図2に示します。今年の調査では、雄武沖の水深100~150mにおいて、スケトウダラとみられる魚群反応（図3）が観察されました。また宗谷岬東方沖の水深70~120mにおいて、スケトウダラならびにニシンとみられる魚群反応が多数観察されました。スケトウダラとみられる反応量は、2019年と同程度の反応量で底水温が2~3℃台の海域に分布していました。

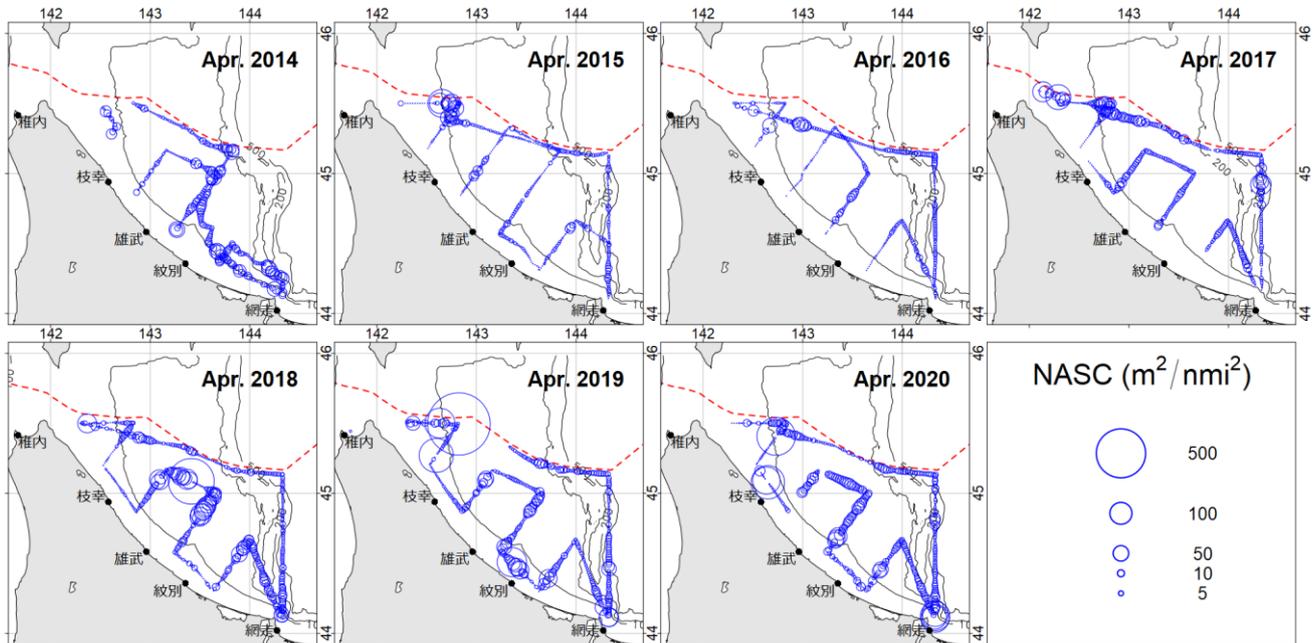


図2. 北海道沿岸オホーツク海における魚群反応量 NASC (m^2/nmi^2) の分布. 2014~2020年4月.

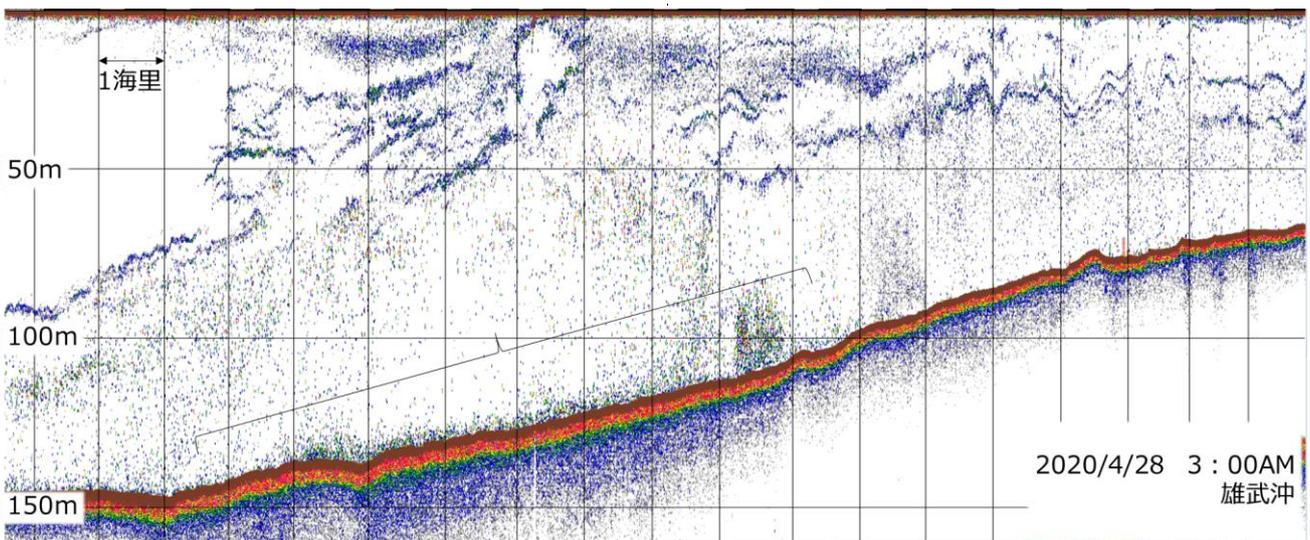


図3. 2020年4月28日の魚探画像（スケトウダラ）. 雄武沖の水深140m付近（黒括弧下）.

4 水温観測の結果（日本海）

調査海域における底層水温（海底上 5~10m, 200m以深の海域は深度 200mの水温）の分布を図 4 に示します。今年 4 月の底層水温は、2019 年より高く、沿岸域では 5℃以上の水塊が占めていました。

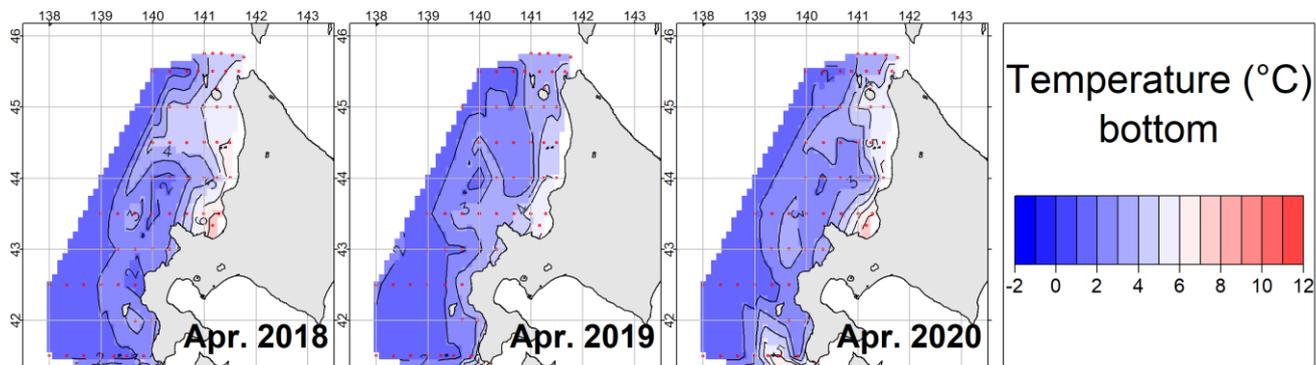


図 4. 北海道西部日本海における底層水温（℃）の分布. 2018~2020 年 4 月.

5 魚群分布調査の結果（日本海）

計量魚探で得られた 1 海里あたり魚群反応量の分布を図 5 に示します。留萌沖の水深 150~300mにおいて、スケトウダラとみられる魚群反応が観察されました。また、水深 100~200mにかけてはニシンとみられる濃密な魚群反応がみられ、同様の魚群反応は天売・焼尻沖まで広い範囲で観察されました。

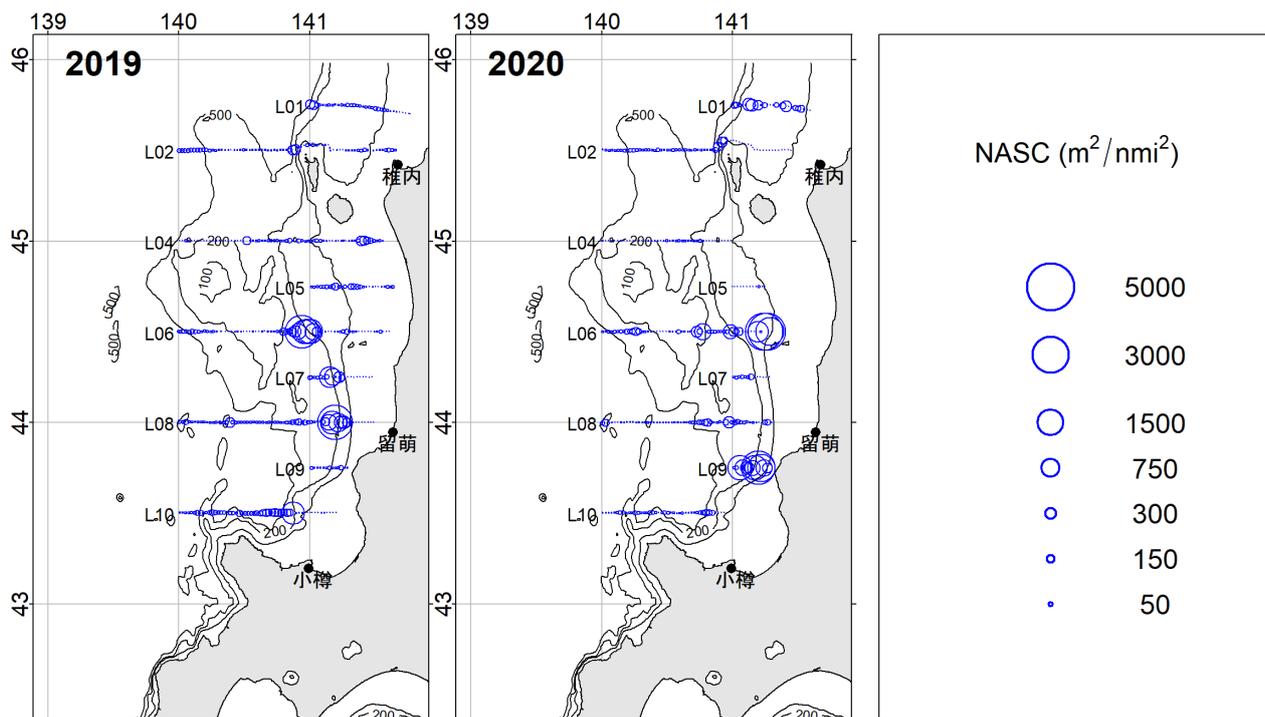


図 5. 北海道西部日本海における魚群反応量 $\text{NASC}(\text{m}^2/\text{nmi}^2)$ の分布. 2019~2020 年 4 月.